



# 開二小だより

Vol. 160 第8号  
平成27年12月1日発行  
練馬区立開進第二小学校  
校長 長田 信彦  
www.kaishin2-e.nerima-kyo.ed.jp

## ～ 学芸会が届けてくれたもの！ ～

校長 長田 信彦

秋晴れの中、11月27日(木)・28日(金)に、本校体育館で“学芸会”を行いました。

児童会で創り上げたスローガンは「みんなが主役、みんなでつくる、笑顔あふれる学芸会」でした。当日は、このスローガンの通り、一人ひとりの子どもたちが輝き、観ている私たちに何だか素敵な贈り物を届けてくれたような気がします。子どもたちのもつ、よさや可能性といった個性を大きく表現していた各学年、学級の演技でした。

練習が本格的に始まったのは、11月に入ってからでしょうか。当日に近づくとつれ、各教室、専科の教室、職員室が学芸会に染まっていきました。子どもたちが友達のよさを見つけ、互いの素晴らしさを認め合い、一つ一つ劇の形を創り上げていきました。また、先生と子どもたちの関係も、それぞれの劇が形になるにつれ、より深まっていたように感じます。それは、先生を信じ、様々な工夫を相談し、子ども相互、また先生と子どもをつながりにより一つの劇を完成させた過程で生まれたものに違いありません。これは、まさに本校のよき伝統であり、文化でもあります。また、衣装や小道具作りなど、各ご家庭との結びつきもより強くなったと思っています。ご協力に感謝しています。ありがとうございました。

さて、保護者鑑賞日の前日、児童鑑賞日の学芸会の様子を振り返ってみます。学芸会の歌を全員で元気いっぱいに歌った後、2年生の子どもたちによる“はじめの言葉”

です。とっても明るく元気に、今日の学芸会をどれだけ楽しみにしていたかをうかがわせる言葉でした。

そして、1年生の「おたまじゃくしの101ちゃん」が始まりました。



黒いおたまじゃくしが舞台いっぱいにとろとろと現れると、子どもたちから声が上がりました。「わぁー」「かわいい」会場内が笑みで埋まります。

お母さん「みんな心配してくれたの。有り難う。」101ちゃん「ねえ、お母さん。もう、ぼく勝手な事はしません。」お母さん「101ちゃんも助かって、本当によかったわ。」13ちゃん「また悪い奴らがいたら、みんなでスクラム組んでやっつけちゃおうね。」おたまじゃくし全員「そうだそうだスクラムだ。」この台詞は、きっと観ていた子どもたちの心にも届いた事と思います。

次は「宝物コンクール」3年生です。3つの歌を素敵に歌いながらのミュージカルでした。演じている3年生の子どもたちが伝えたかったことが、フィナーレの曲の歌詞にあります。本当の宝物。お年寄り、力一杯働く人たち、夢に生きる子どもたち。

そしてこう結んで歌います。本当の宝物、それは世界を一つに結ぶ人間の愛と真

心で、みんな仲良く助け合って、本当の宝の花をさかそうよ



いつまでもいつまでも、子どもたちの心の中に育って行って欲しい歌詞だと聞き入っていました。

前半最後は5年生の劇団四季でおなじみ「ライオンキング」でした。



動物たちの王国を追放されたシンバが、再び王として王国に戻る物語。人間の役は一つもありません。役になりきり、演じることが難しいシナリオです。でも、今日の最後、5年生の“終わりの言葉”にありました。「私たちにとっても、最後の学芸会です。」この力、やる気をもって、見事に一人ひとりの子どもたちが演じきりました。観ている子どもたちの、目を丸く輝かせている姿がとても印象に残っています。

休憩の後、私の言葉として、子どもたちの表現活動や鑑賞する態度を大きく賞賛しました。そして後半のはじめはあおぎり学級「おもちゃのちゃちゃちゃ」です。



菊地佐絵子先生の素敵なピアノ伴奏に乗って、人数が少ないながらも、実に躍動的に表現活動を楽しんでいます。ここでの台詞の中にも心に残るものがありました。「一緒に遊びたいの?」「意地悪しないなら、仲間に入れてあげるよ。」「約束しますか?」「うん。約束するよ。」「うん、うん。」「じゃあ、

友達だ。」子ども同士の仲直りの場面でした。

次は、4年生「オズの魔法使い」でした。



家へ帰りたイドロシー、賢い知恵が欲しい案山子、優しい心を求めるブリキ、強い勇気を求めるライオンの有名な物語です。心配そうに舞台を見つめる子どもたち。オズが普通のおじさんだったことが分かり、観客の子どもたちも一緒にがっかり。でも、南の魔女の登場で事態は急展開。願いが叶う頃には、観ていた子どもたちも笑顔で一杯になり、大きな拍手を送っていました。

続いて「パオパオの木」2年生です。



パオパオの木を切ってしまうおうとする子どもたち。星をめくりながら色々な方法を探していきます。でも最後には気づきます。木の中に家を作り、ブランコで遊び、木の実で料理をすることを。ここでも共生の心を訴えていました。

最後は6年生「スーパーカラフル」です。



フィナーレでは、グレー大魔王と仲間になり、一人ひとりによさがあり、互いを認め、力を合わせる大切さを表現していました。笑いと共に深い主張と子どもたちの卒業までの強い意思が込められていました。

開二小の子どもたち。素敵な贈り物をありがとう。次の全校朝会で必ず伝えようと思いました。

翌日のご参観、有り難うございました。